

奉げる言葉

陸軍航空本部の所在した市ヶ谷台、ここメモリアルゾーンの全陸軍航空部隊碑の碑前におきまして、碑前祭は三十七回を迎え、陸軍航空戦没二十万余柱の御英霊に申し上げます。

陸軍航空は、明治四十三年徳川・日野兩大尉によって代々木原での初飛行以来大東亜戦争敗戦までの短くも激動の三十五年間でしたが、御英霊の皆様には護国のため幾多の困難を乗り越え、陸軍航空の戦力を築き、第一次世界大戦・満州事変・支那事変・ノモンハン事件・そして大東亜戦争と国運を賭して戦いに臨まれました。戦いにおける輝かしい偉勲は戦史に残り、その後の航空戦力の整備に活かされたことは明らかであります。

来年は航空自衛隊が昭和二十九年に発足し六十年を迎えます。航空防衛力を単一の軍種として設立に関与された陸軍海軍の航空関係者の熱い思いと信念によって築かれたことを思い起こしております。

この間、国内は一昨年の東日本大震災により、未曾有の災害と原発事故が発生し、先の大戦以来の国難に見舞われ、未だ復興の途上にありますが、戦後の復興の如く必ずや災害に耐える復興を成し遂げると思っています。

又我が国を取り巻く環境は、国際社会の強い中止要請を無視した

北朝鮮の弾道ミサイル発射・原爆実験を強行し、休戦ライン板門店からの一方的撤退等軍事的挑発を継続し、中国の軍事力増強・尖閣諸島の領有権主張・領海侵犯の示威行動、ロシアの北方四島占有・軍の配備など昨今行動主張を強めており、防衛体制の多面的強化を図る時期にあります。

英霊の皆様が示された航空の重要性を思い起し、我が国の防衛のあるべき姿を求めて努力することが、私ども先輩に続く者に課せられた勤めであると考えます。

つばさ会が碑前祭の催行を引継いでから九年目になりますが、当初は二百名近くの御遺族・戦友・来賓のご参加を頂き盛大に実施してまいりました。しかし関係者の御高齢と共に規模を縮小し簡素な祭にしてまいりましたが、戦友の御参加も限られるようになり今回をもつて最後の祭としたいとご報告いたします。

尚公益財団法人偕行社は七年前から毎年九月に市ヶ谷台慰霊祭を行い、参列者はメモリアルゾーンの各碑に焼香・献花をいたします。つばさ会の代表も参列し引き続き全陸軍航空部隊碑にお参りさせていただきます。

英霊の皆様のご加護のもと、安んじて頂ける国家社会の実現に向け微力を尽くすことを表明し、碑前に奉げる言葉といたします。

平成二十五年四月十八日 つばさ会 会長 竹河内 提次